

小冊子（講演を文章化したもの）



1997年から2002年にかけて福岡市で開催された教育関係の講演記録です。講演は約3時間ですが、講話の部分を一部文章化しました。

当時の福岡での協力者によって、以前よりテープ起こしの原稿は出来ていましたが、出来るだけ多くの方々に手に取って読んでいただけるようにとの思いから、今回新たに竹下氏により編集し直したものを冊子化しました。（現在編集途中のものも、今後追加していきます）。

子育てを通して得られる智慧により、家庭、学校、職場での様々な人間関係の問題も解決できるようになります。本当の自分は何か、どう生きればよいのかということの参考になると思います。この小冊子をご希望の場合は、ユニティ・デザインまでご連絡ください。有償で頒布しています。詳しくは[アクセスサイト](#)をご覧ください。

また、[アクセスサイト](#)には同じものを掲載しており、無料でダウンロード出来ます。自由に何冊でも印刷して、ぜひお知り合いの方にも差し上げていただければと思います。

【子育て】 子供たちの心を感じられますか(1)～(6): 全6冊

【教育】 思春期の親子関係(1)～(4): 全4冊



【著者プロフィール】

竹下雅敏(たけしたまさとし)

1959年神戸市生まれ、広島県在住

子育て、人間関係、宗教学、自然療法など、幅広いテーマの講演活動を行っている。

監修図書「幸せを開く7つの扉」ビジネス社

豊かな心をもった自立した人間を育てるために

アクセスサイト：<http://www.unity-design.jp/jiritsu.html>

印刷・発行：ユニティ・デザイン

お問い合わせ：TEL&FAX 0823-22-8832

子供たちの心を感じられますか(2) — 躰について —

7歳までの躰を中心にした親子関係に的を絞って話を進めていこうと思います。まず理解して欲しいのは、

「豊かな心は忙しさの中では育ちません。余暇やゆとりの中で育れます。生活の中にゆとりを持つ工夫が必要です」

ということですよ。親が仕事などで忙しくてゆとりがなく、時間に追われているような家庭では、子供が豊かな心をもちようがないのです。ですからどのような人生設計をして、豊かな時間を過ごせるようなゆとりを作っていくかということに頭を使わなければいけません。一生の生活設計を立てることが必要なのです。

現代人は何ごとが大きな目的や夢をもってそれに向かって努力して成し遂げていく、それが人生だと勘違いしているようです。それは人生のほんの一部であり、有意義に感じるかも知れませんが、大きな畏れがあり、本当の幸福とは違います。現在の今ある豊かさを感じるとる能力のある人が、実は幸福なのです。これを説明するのは時間もかかるし非常に難しいものです。

映像配信している竹下氏の講演テーマは大きく分けて5つあります。 ※一部準備中
会員登録していただくと、有料コンテンツ(1本1時間ほどの講演が525円)をご覧ください
ただです。普通にインターネットの操作ができる方であれば、簡単に会員登録と視聴
ができます。無料コンテンツや試聴映像をお試し下さい。なお、ネットが混み合う夜より
も朝昼の時間帯の方が快適にご覧いただけるようです。

視聴代金は、1ヶ月分をまとめて、翌月初めに明細をお送りして、郵便振り込み又は代
引きでお支払い頂いています。詳細は映像配信のページをご覧ください。

《テーマ1》 家族の絆 [連続講演]

夫婦関係そして親子関係がしっかりしてい
て家族の絆が深い家庭は、どんな逆境も必ず
乗り越えられます。しかし単なる経済的な
パートナーであるような夫婦だと、夫が職を
失ってしまうと、家族はばらばらになってし
まいます。男性が家族より仕事を優先するよ
うな価値観は、いやがおうでも変えさせられ
るような世界状況になっていきます。

正しい優先順位は、第1が夫婦、次が子供、
そして友人。仕事はずっと下です。

〈家族の絆～親子(1)～より〉

サブテーマ)

親子(親子関係)、夫婦(夫婦関係)

《テーマ2》 宗教学講座

この講座では宗教を科学的な視点から精密
に霊的な科学として捉え直します。そうする
ことで、あらゆる宗教のある意味での一致点
と相違点が明確になってくると考えています。

仏教、キリスト教、神哲学、ヒンドゥー教
の哲学、サーンキヤ・ヨーガなど、それぞ
れの世界観がどう違うのか、言葉を正確に定義
して、同じものは同じと捕まえて、宗教の全
体を理解することを目標としています。

〈初級コース第1回より〉

サブテーマ)

初級コース(中級上級コースは順次開講予定)

番外編:ダ・ヴィンチ・コードの真相

《テーマ3》 チャクラと波動

人間の身体には重層的に高次の身体が
あり、その神経中枢がチャクラと呼ばれ
ています。チャクラの活動は、その方の
意識と密接に関係しており、いわゆる「波
動(意識の高さの尺度)」を計るセンサー
としての機能もあるそうです。

インドに伝わるガヤトリー・マントラ
は、ガヤトリー女神を讃え智慧を授かる
ことをお願いするマントラです。このマ
ントラを使った除霊と浄化の祈りなど、
心身の浄化と波動を高めるための様々な
方法を竹下氏が解説します。

《テーマ4》 東洋医学講座(雑談集)

この講座は、中国医学、インドのアー
ユルヴェーダ、アロマセラピー、ホメオ
パシーなど、代替医療を統合する医療理
論を学ぶ講座です。テキストとDVDで
販売してきましたが、受講生の方に講座
の中の雑談が好評で、4期行われた講義
のうち教材にしていない映像から雑談部
分を再編集して公開します。

《テーマ5》 ホツマの神々

日本神道に伝わるホツマの神々について、
最近起こった事をお伝えします。

彼は幸福感を、しかし、つかの間の幸福感を感じているのです。そしてすぐに次の
公演の練習が始まり、また仕事に戻って行くのです。

ではどうして公演が終わってホッとしているときに幸福感を感じるのでしょうか。
それが問題なのです。実は何かが成功して、それで目的がいったん消えてしま
う。目的が消えてしまうとき、一時的に何も欲望のない心の状態があらわれます。そ
の心の状態が幸福なのです。ただ有名な歌手は、公演が終わった時にそうした一
時的な幸福感を感じているわけです。ですからずっとその幸福感を感じていたい、永
遠に感じていたいという場合にはどうすればいいのかというと、欲望を持たない
ようにすればいいのです。あれがしたいとか社会で成功したいとか全然考えない、
最初から全然欲望を持たないんです。そうしたら初めから幸福でいられます。無
限にいつも幸福でいられます。ですから本当のことを言うと、豊かさというのは、
実際には欲望の消えた本来の自然な自分の状態なのです。

ヨーガという言葉をご存知でしょう。体操だと思っている人が多いのですが、
本当は、瞑想の科学、自分の心をコントロールする科学です。「ヨーガ・スートラ」
というヨーガの根本経典に、ヨーガの目的が書いてあります。『ヨーガとは心の

間を幸福に過ごしているのです。

それを打ち壊すのは誰かということ、両親です。要するに、まだ立てない、まだ話せない、これもあれも出来ないと言って、子供に文句を言い続けます。そうすると子供は今の自分じゃいけないんだと思ってしまいます。親によって幸福を打ち砕かれていくという体験を毎日のように繰り返すことになるわけです。そうすると心が歪んでいきます。個人差があるのですから、なるべく子供に「…が出来ない」と言わないほうがいいのです。幸福に育った子ほど歯の生え方は遅いのです。多くの兄弟がいて物の取り合いの中で育つと、赤ちゃんの歯は早く生えます。早く歩く、早くしゃべるのもそうです。自分の欲望を両親が満たしてくれないので、早く成長して自分で満たさないといけない。ところが多くの人は早く歩いた方がいいと思っています。そして「うちの子はまだ歩けない」と子供に不平、不満をぶつけてしまうのです。すると子どもは安らかでいられない。

3歳までの子供には圧倒的な愛情が必要です。ほとんどの時間をどちらかの親が抱いている、もしくはずっとそばにすることが必要です。すると子どもの要求が満たされて育つので、本当にいい子に育ちます。むしろ親の意を汲みとるよう

ばっかし、どうしようもない悪い子ね」と叱ると、どうしようもない悪い子に育つわけです。最初に親がずっと子供のそばにつきっきりというのは大変なことです。実りが大変大きくて、後はとても楽です。子供というのは勝手にいろいろなことに興味をもって、自分でやっていきます。そのときの子は偉い子だなあと、我慢強い子だなあと子供を見て思うのです。そうすると子供がそうなくて。基本的にはこの繰り返しです。

私は大変長風呂なのですが、ある銭湯で湯に浸かっているとき、父と子のふたり連れが入ってきました。そのお父さんは子供の頭と体を洗ってやった後、自分はシャンプーで頭をゴシゴシ洗っていました。子供はというとちょこちょこ歩いて、蛇口から洗面器に少し水をくんで湯船に入れていました。何度も何度も運んでいる。私はその不可解な行動をじっと観察していました。動作が何とも言えず可愛くて、私は子供というのは何をしても楽しくて、何でも遊びにするんだなと思いました。お父さんはきつと会社のことでも考えているのでしょうか。身体を洗うのに集中して子供のしていることには全然気づいていない。そのとき私は突然、その子供が何をしているのかわかったのです。子供には湯船のお湯が熱い

います。神の国とは、明らかに神に全託することによって得られる心の平安のことです。また義とは、人としてなすべきことですから、「汝の隣人を愛せよ」ということになるのでしょう。私たちは家のローンのために、最も身近にいる隣人である妻や子供に、犠牲を強いる生き方をしてはいませんか？キリストは正しい生き方をしていれば、生活に必要なものはすべて与えられると断言しています。私たちは必要以上の富と豊かさを求めて真の幸福に至る道を放棄しているのみならず、第三世界の人々に不必要な苦しみを与えてはいませんか？あらゆる宗教は、本当はとても簡単なことを教えているように思えます。それは真の幸福とそこに至る道です。そして私が皆さんに伝えたいのは、その道が、正しく子供を育てるといってもっとも身近で基本的な生活によって歩むことが出来るということなのです。

最後にインドの聖女アーナンダ・メイヤー・マーの言葉を紹介して、この章を閉じることにしましょう。

「多くの人々が、新しいよりよい世界をつくることをいろいろ考えています。しかしあなたがたは、そういう現象的なことよりも、もっと根本的なものに目を

観察して子供のいいところを見つけて認めて育てていくと何も問題がないのです。ではどうして親がそれが出来ないかというと、子供より会社の方が大切なんです。すべての原因はそこです。会社、子供、妻って具合に優先順位がついているのが、すべての混乱の原因です。子供に関心が行くはずがない。いつも仕事のことを考えていて心にゆとりがない。暇な時間も仕事のこと、ひょっとしたら趣味のゴルフのことを考えているのです。本当はそんなところに幸福はありません。仕事で成功しても幸福にはなれません。ずっと永続して会社にいられるわけではありませんから。それより子供がちゃんと育つ方がずっと喜びが大きいです。それよりは夫婦関係がしっかりしていて、一生幸せでいられる方がずっと幸福だと思えます。ですからすべてが混乱していて、ありもしないところに幸福を求め、子供が、妻が犠牲になっていくのです。

3歳までは愛情要求を徹底的にかなえて大切に育てていくことが大切で、躰とというのは考えなくていいのです。子どもは1歳までに身体の運動系、知覚系の機能を完成させようとします。次に連想し空想する機能を発展させていきます。語彙が非常に大きくなってきて、3歳までに空想する能力を完成させていきます。

夢を追いかけてそれを実現することが幸福なんだとほとんどの人が無意識に思い込んでいます。私はそれが間違っていることに気づいたんです。まったく夢を持たないでいれば、あるがままでいられます。そして今を生きることが出来ます。子供が何をやっているか、いつも気づいていることが出来ます。実はそこに幸福があります。目標をもって何かを成し遂げること、目標をもたないであるがままの今に安らいでいることのバランスをとる必要があります。多くの人は夢や目標をもつことの大切さをときますが、仮にどれほど高い理想や目標を実現できたとしても、実のところ世界の平和という視点から見た場合、ほとんどどんな役にも立ってはいないものです。それよりも心が平安であることの方が、より多くの恩恵を世界に与えることが出来ます。目標を持たないことのほうが圧倒的に価値が高いのです。夢を実現することで得られるつかの間の幸福ではなく、真の幸福とは何かを身をもって示すことが出来るからです。

うちは大変狭いのですが、その中で私が寝るところをやっと作って、そこで寝ています。そうすると、妻はそこにきて私の体に触れる形で座ります。そうすると子供は2人の様子を見て、割り込んできます。私はひとりになれないので別の

だから、静かにしていてくれというところでしょう。だからどうしても聞いているように聞いていないのです。そうすると段々妻は腹が立ってきます。ついには自分の方になんとか振り向いて欲しいと思うから、高価な洋服を買って、「これ私に似合うかしら」なんて聞くことになる。旦那さんの気を引くことをみんなやっていますね。ところが旦那さんは妻の要求には答えないままです。でもなかなか素直に「私のことをもっと愛して、大切にしてください」とは言えません。それで「もっと、子供のことや家庭のことを考えてくださいよ」と言ってしまう。男は真に受けてしまって、「お前たちのことを考えてこそ、おれはこんなに一生懸命働いているんだ」ってとんちんかんなことを言ってしまう。奥さんの求めているのはそんなことじゃないですね。これが続くと奥さんのビールの出し方から何からけんを含むようになります。旦那も強いことは言えない。こうして夫婦の亀裂が深まり、お互いを諦観し、お互いを馬鹿にし始めます。子供は母親からしょっちゅう父親の愚痴を聞かされるはめになり、お父さんを馬鹿にするようになります。教育上よくないのは明らかですが、仕方ないですね。

男も女も子供もみんな、相手の愛情を得ようとして頑張ります。子供の愛情要

は親のやっていることをそのまま真似をしているだけです。教育の問題というのは、教育だけではなくて、家庭の問題、特に夫婦関係の問題なのです。旦那さんの方がもっと奥さんの気持ちを考えないといけないですね。家庭のことをもっと顧みないといけない。そして奥さんが家庭の教育や育児のことでどんなに大変な目にあっているのかを理解して、協力しないといけない。それから奥さんは、旦那さんは疲れ果てているということを考えてあげるといいのです。出来れば、子育ての中でもっとゆったりと生きて欲しいのです。そんなに一生懸命仕事する必要があるので、会社でそんなに出世する必要があるのでということなのです。それよりは、もし給料が半分になっても、豊かな夫婦関係と親子関係が来ている方が幸福に感じると思います。心の豊かさというのは物質的な豊かさを越えてしまうのです。

私はこう言いたいのです。お金は必要です。誰もが豊かになるための必要と権利をもっており、そのためには絶対にお金が必要ですが、そんなには要らない、皆が思っているほどには要らないのです。ですから夫婦ふたりでうまく働いて、たとえば、20万円稼ぐのはそんなに難しくはないのではないでしょうか。すると

れがしたいと時に親が困ることもするようになる、そういうときに躰が必要になってくるのです。ところが反抗期というのは実は独立期なわけで、独立した大人になろうとする意欲のある時期なわけです。それまでは愛情要求つまり赤ちゃんだったのが、大人と同じようなことがしたいという意志が出てくるわけです。親の手をはねのけて自分で食べようしたり、自力で服を着ようします。その時はこの子は大人になろうとしているんだなと見て欲しいのです。自立しようとしている、意志が強くなったなと受け取って欲しいのです。そして親は子供の自立しようとする要求を満たしてやるのです。それは、決して子供の欠点を指摘しない、ということことです。子供の悪い面を直そうとして注意するのは逆効果です。悪い面には無関心でいることが重要です。悪い面を見ても気に留めないようにするのは、親は躰についてよく考えて、これは本当に躰ける必要があることなのか、それとも必要がないのではないかとということが分かっていないといけないのです。具体的な話なのですが、うちでは家族3人がそろって食事をすることはめったにないんです。私と妻はいっしょに食事をとりますが、子供はいつも一緒ではないのです。子供は自分の食べたい時だけ一緒に食べるのです。普通の家庭では眉

は意外かと思われるかも知れませんが本当です。

私は学生の時に、小学生男の子3人の家庭教師をしました。その子の家は、田舎の島の町長さんだったので、その奥さんがとてもうるさくていわゆる教育ママでした。子供を見て目に入った瞬間に「宿題やったの？」とやるわけですよ。言うことはほとんど三つか四つしかないので。「ダメじゃない、何してるの、勉強したの」そういうことしか言わず、子供をほめることは全然ありません。そして、その子供3人とも、喘息でした。私はその母親を見て、この人が喘息を作っているんだと思いました。要するにお母さんが怖くて子供は文句が言えない。子供には2種類のタイプがあって、外交的な子供と内向的な子供がいます。外交的な子供だったら、そういうふうダメじゃないの、いけませんってやったら、猛然と反発して、手のつけられない子供になるか、親の見ていないところで悪さするような子供になります。ところが気が弱くて内向性の子供は、反抗ができません。そうすると病気になって反抗します、喘息になるわけです。喘息になってゼイゼイと言っていればなかなか怒れませんよね。だから喘息の子供と言つのは中学生ぐらいになって親に公然と反発できるようになっていくと自然に治ってきま

ていないといけないよ」というと、「出来る」と言つのです。「そこまで言うのなら一緒に食べよう」ということになって、三人一緒に食事をしました。そうしたらうちの子は2時間ピタッと席について、全然騒がないでちゃんと食事をしていました。私はそれを見て偉い子だなと思いました。子供が2時間静かに座って食事するのはどんなに大変なことか、大人でもしんどいのに子供がそれをやること出来る。それは子供の自発的な意志によるからなのです。親が静かに食べなさいと強制したものではありませんのです。「どっちにするっ」と聞いて、自分から「出来る」って言ったからなのです。

家でいつもちゃんと座りなさいとかうるさく言って育てると、結婚式場などで騒いだり走り回ったり、親の目の届かないところでは悪さをする子になります。家でうるさく言われて窮屈な思いをしているので、ここじゃ怒られないだろうということを子供はちゃんと知っているわけで、花嫁さんのところまでだーっと走って行ったりします。結婚式場では誰も怒れませんよね。子供は偉いなあって思います。そうやってわざと親の困ることをするのは。周りの人はその子の親はどんな躰をしているんだろうと思います。けれどもそういう子に限って家では結

までには完全に片づけられるようにしようと目標を立て、長期計画で考えるのです。まず準備段階としてどうするかというと、子供がちょっと片づけているところを見つめます。自分の大切な物は踏まれるといけないので、ちゃんと片づけています。それに親が気づく、そしてほめることが大切です。そして私が子供に片づけて欲しいと思う場合、命令ではなく、「一緒に片づけよう」と協力の姿勢で話しかけます。「これだと寝るスペースもないから、一緒に片づけようか」と話しかけます。子供が「全部するの？」というから、「うん」と言いますが、やれとは言わないのがこつで、片づける素振りをします。すると子どもは一緒に片づけてもらええると思って片づけ始めます。子供には難しいなと思うものは私が片づけます。親と一緒に片づけることがとても大事なんです。そしてここはきれいに片づいたけど、まだあっちには車やクレヨンが残っているとします。そういってき、片づけていないところは無視して、片づけたところだけを見て、うまく片づけたなあと思って、「ああ、きれいに片づけたね」と子供をほめるのです。すると子どもはクレヨンや車にも目がいって、クレヨンも片づけ始めます。またちゃんと片づけて偉い子だなあと思って感心するわけです。少しおもちゃが残ってい

いるわけですから、そこで躰けなければ躰けたことになりません。ところが親は特に父親は、仕事で疲れているのに休みの日に妻、子供を遊びに連れて来ていることで、自分を孝行者だと思っているのです。子供のことはどうでもいい、躰けことなど眼中にないのです。というよりは仕事で疲れ切っていて躰どころではないという方が正確かも知れません。まったく子供が何をしているのか無関心です。ある子供が水族館の説明の機械のレバーを引いて遊んでいるのですが、お父さんは「いら、何してるんだ、行くぞ」って言います。子供はやめない。お父さんはそこらへんをグルーと回って来てもう一度、「行くぞ」と言います。子供は行かない。またお父さんはグルーと回って来て同じことを言う。こっちの方が水族館です。そのうち下の子がやって来てお兄さんがやっているのを見て、お兄さんからレバーを取ろうとして、兄弟げんかが始まります。お父さんはまだ「何してるんだ、あっちに行くぞ」と言ってる。うちの子はその機械で遊びたいから後ろですっと待っているんです。私とすれば、その子たちが早く終わってくれないかなあと思いますが、兄弟げんかは終わりそうにないので、「とも君、行くうか」ってというと、うちの子は「うん」と言って素直に離れました。子供だから遊びた

意味がわかるようになって、次から話が伝わりやす。小学校に入ると先生は難しい言葉を使ってしまいます。赤ちゃん言葉で育つと子供は先生の言っている言葉の意味がわからないのです。それでついでいけなくなります。ある知人が武道を教えているのですが、道場に5歳ぐらいの子供がやってきました。彼が、「じゃ、右足を上げてー」と言いながら自分も足を上げて見せました。ところがその子は出来ない。「こうするんだよ。右足を上げるんだよ」と言っても子供は出来なくて、お母さんの方を見て助けてもらおうとするのです。すると母親が、「お箸を持つ方のあんよをたかいたかーいするのよ」と言いました。すると子どもは右足をぱっと上げたんです。その人が「翻訳しないとわからないんだ」とびっくりしていました。同じ年齢の子供と比較した場合、うちの息子は明らかに違っているといます。それは私が自分の子供を自分とまったく対等の存在であるとして、大人に対するのと同じように対等に話しかけているからなのです。躰けなければいけない人間だとか、未熟な人間だとは思わないのです。自分と対等な人間だと思つと、子供はそうなつていきます。ある意味ではとても簡単で、大人並みに扱われたいという独立要求を満たして扱っていれば反抗されるわけがないので

す。私だったら絶対にそんなことはさせません。下の子の方が力が弱いのです。お姉さんが妹を押しつけようとしたそのときにそれを許したら、弱いものをいじめめる子供に育ちます。そういう衝動が起こるその瞬間に制止しなければいけないのです。そういう衝動が出る前に止めさせなければいけないのです。親としては下の子が何かで遊んでいるとき、上の子が下の子を押しつけて遊び出すということとを前提として知っておかなければいけません。力で無理矢理奪いとうとする欲望が起こる前に、止めさせなければいけないのです。「この子が遊び終わってから、遊びなさい」と言わなければいけないのです。言うことを聞かなければ、躰は必要ですから、場合によっては手をたたかなければいけないこともあります。ある時私が買い物をしていました。女の子を連れた母親が買い物をしていたのですが、子供の様子にはまったく気づいていませんでした。女の子は商品の中にアイスクリームがあるのを見つけてきました。私ならこの瞬間に「今日はアイスクリームは買ってあげないよ」と言います。そうしてピタッと子供の欲望を打ち切ります。ところが女の子はアイスクリームをじっと見ている、見ていると欲しくなりますから、お母さんに「ねえ、アイスクリームがあるよ」と言いました。お母

人間というのは悪いところに注意を集めると、悪いところが育って行きます。しかしよいところに注意を集めるとよいところが育って行きます。虫を撲滅しようと虫を殺すと、もっと手に負えない虫が出てきます。それよりは土を良くすること、健康にすることの方が健全ですよ。そうすると共存が可能になります。子供の良いところを見てどんどん育んでいくと、悪いところが見えなくなってきました。その時に必要なのは、ものすごく長期にわたった計画性です。おねしょにしてもこの子が18歳になるまでに直そうと考えるのです。その歳でおねしょする人はいませんね。おねしょを問題にしないで大らかに考えるのです。子供が算数の成績がクラスでも最下位だ、宿題もしないとしましよう。でも大学生になって算数が出来ない人はいないでしょう。読み書き算数が出来ればいぐらいに考える。それよりは心が豊かで人のことを思いやれる人になった方がずっと賢明です。悪いことには触れないで、指摘しないで、何か出来たときには「えらいねー、賢いねー」と言えばそうなります。

うちでは子供に対しても、大人に対するのと同じように話しかけます。子供が関心のある新幹線の話でも、子供が「500系のぞみとこだまの違いは何?」と

とんと欲望が落ちて、全然買ってくれと言いません。欲望の最初の入り口で子供の反応をつかまえて先手を打つことが非常に大切です。そしてそのためにはよく子供を見ていないといけないのです。

それは本当に大切なのか、必要なかどうかということよく考えて、躰けていくことが大切です。うちの子は左利きで、左手で字を書いています。それを無理矢理叱りながら右利きに変える必要があるのだろうかということ。人は一人ずつ体の使い方が違いますから、自分が楽な方を使ったらいいと思います。天才と言われる人の中には左利きの人が多いのです。レオナルド・ダ・ヴィンチ、アインシュタインは左利きです。レオナルド・ダ・ヴィンチは右手に変えられていたらあれほどの絵が描けたでしょうか?もしどっちがいいのかわからないのなら無理に躰けることはないと思います。西洋と東洋では食事のマナーに違いがあったりしますし、マナーのために躰ける必要はないのではないかと考えるのです。それよりは下の子の遊んでいるものを無理矢理奪いとって下の子を泣かせてしまうというようなことは論外で、これこそ躰けるべきことだと思つのです。どこかに子供を連れていったときの子供同士の様子こそ、親が注意を払うべきことです。

